

特集 龍燈伝説と関伽井嶽

標高605mの関伽井嶽は、古くから修験者の修業の場、地区民1286年前の734年(天平6)、源頼上人が薬師如来像を安置して、多くの人々が行き交い、祈り、さまざまな言い伝えが生まれた。

龍燈は、燕石からでないと見ることができなかつたそうですね。夜光虫だとか、ガス、いわゆる人魂みたいなものが水上を通っているのでは、と言われているのですが、わかりません。もしかしたら、いまでもあるのかもしれないですね。気象条件とか、さまざまなものが変わってしまい、人の目には見えていないのかなとも思います。タイミングが良ければちょっとした大きさになってしまっていることも、見えない要因はなっているでしょう。

関伽井嶽は、霊場と言われているだけに、スッとした気配のようなのを感じることがあります。それは目に見えるわけではなく、感賞的なものです。たぶん、みなさんも感じることができ

関伽井嶽 常福寺住職 上野 宅正さんのはなし

地域のランドマークとして 役割を担って行く必要が



薬師堂に入ったという。龍燈現象が世に知られるようになったのは、江戸中期の地理学者、長久保赤水が文字に残したことが大きい。赤水は常陸国多賀郡赤浜村(現在の高萩市)出身で、一八〇一年(享和元)に八十三歳で亡くなっている。

二十八歳のころ(一七四五年・推定)、実際に関伽井嶽の燕石から龍燈を見た。当时は龍燈場という東屋のような建物があり、燕石のうえから見たとされる。赤

と思うのですけれど、駐車場に車を置いてドライブを開けた瞬間に感じる、空気の澄んだ感じが、そういう話をのなかに、そういう話をされる方が、結構います。夜も、真っ暗でシトシと書きます。それは地域の歴史が軸にないとためたと思はなくては、にぎやかな感じですか。人の霊とか仏教的なものではなく、自然のいろいろなものが集まってくる感じがします。

十四年後に千三百年を迎えます。それだけ存在しているという事は、地域と伊勢様をお参りに行くことで、代に含ませて変えてきた、の接し方や役割などを、時代に合わせて変えています。ということです。それに付いていくような意味で、いまが随分と景勝地とか食べ物が出て来まして、それがいろいろにな所に残っている、人口減少で檀家さんが減り、寺の存続が大変になっています。大問題ではあるんですけど、それが当た

狭んだその向かいにあり、見上げるほどの巨岩だ。現在は崩れる心配があるので、金網で覆われている。境内入口にも大きな石があるが、こちらは道路工事であるが、こちらは血が出てきたので、そのまま残されたのだという。

上野宅正住職は「木々が中核になる寺が、いつかの寺を見ていたわけです。常福寺の場合も、龍燈のころの時代は立ち位置が観光の時代は変わります。そこには、かなりの魅力的な場所になります。

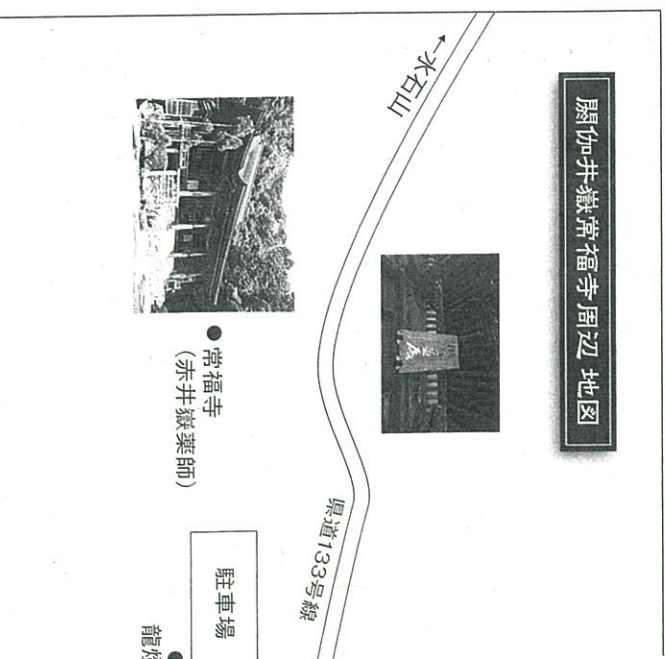
関伽井嶽は、ツナノ南限で、ヒノキの自生の北限です。境内から少し降りると、ヒノキ林、裏はツナ林で、風景がまったく違います。史が軸にないとためたと思はなくては、にぎやかな感じですか。人の霊とか仏教的なものではなく、自然のいろいろなものが集まってくる感じがします。

十四年後に千三百年を迎えます。それだけ存在しているという事は、地域と伊勢様をお参りに行くことで、代に含ませて変えてきた、の接し方や役割などを、時代に合わせて変えています。ということです。それに付いていくような意味で、いまが随分と景勝地とか食べ物が出て来まして、それがいろいろにな所に残っている、人口減少で檀家さんが減り、寺の存続が大変になっています。大問題ではあるんですけど、それが当た

ばいわきという土地は、国内だけでなく海外の人にとっても、かなりの魅力的な場所になります。

関伽井嶽は、ツナノ南限で、ヒノキの自生の北限です。境内から少し降りると、ヒノキ林、裏はツナ林で、風景がまったく違います。史が軸にないとためたと思はなくては、にぎやかな感じですか。人の霊とか仏教的なものではなく、自然のいろいろなものが集まってくる感じがします。

十四年後に千三百年を迎えます。それだけ存在しているという事は、地域と伊勢様をお参りに行くことで、代に含ませて変えてきた、の接し方や役割などを、時代に合わせて変えています。ということです。それに付いていくような意味で、いまが随分と景勝地とか食べ物が出て来まして、それがいろいろにな所に残っている、人口減少で檀家さんが減り、寺の存続が大変になっています。大問題ではあるんですけど、それが当た



伽井嶽にやって来たのか、わかる。

上野住職によると、龍燈が盛んに見られている間は、かなりの納税をしていたという記録が残っていて、いかに観光収入があったかを証明している。

その後、盆踊りが行われるようになり、近在近郊の男女が踊り明かした。そこは、出合いの場でもあった。しかし、刃傷沙汰で中止になり、常磐炭礦の内郷の回転盤盆踊りに、引き継がれていくことになる。